

令和6年度 幼児教育研修（年齢別担任研修0歳児・第3回）

「子どもの発達と保育者の関わりについて」

日時：令和6年11月27日（水）15:00～17:00

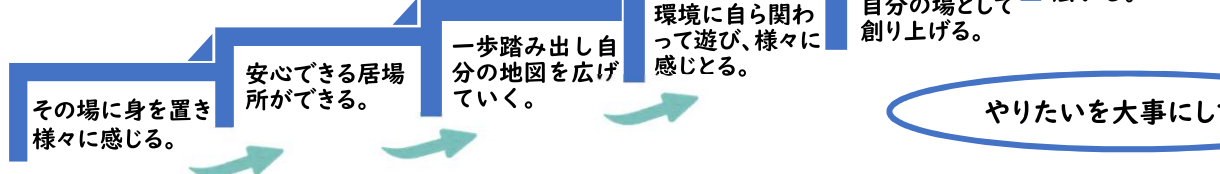
会場：足立区勤労福祉会館

講師：彰栄保育福祉専門学校 専任講師 山梨 有子 氏



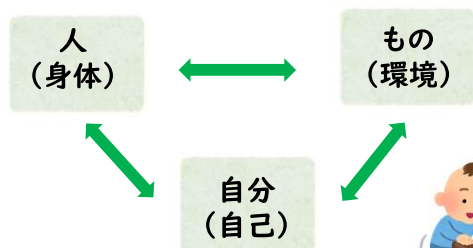
★ 前回の研修の振り返り ★

能動性発揮のプロセス



※出典：無藤監修 宮里、大方編著「今、この子は何を感じている？0歳児の育ちを支える視点」ひかりのくに（2023）

0歳の保育内容



子どもの興味、関心を知ることが大事

- ・子どもが何をしようとしているのかよく読み取っていく。
- ・次の遊びにつながるヒントはないか意図的に考えていく。
- ・子どもが育ちたい方向を支える。



→ 保育のねらいにつなげる

子どもは大人が思っている以上に様々な体験をしている。しかし、言語化できない。だからこそ、様々な体験をすることが大切になってくる。



保護者と子どもの関係構築の援助

● 保育所における子育て支援の方法とは？

- ・（相談）相談しやすい雰囲気づくり
- ・（助言）具体的に一緒に考えてくれる人
→ 答えがほしいわけではない。
- ・（提示）保育の様子を見してもらう。
→ 行動見本の提示。子どもの姿を見ることで理解してもらいやすい。
子どもの成長の気づき、日々の保育を伝える。



保護者と共感し合う。

● 保育相談支援の3つの段階

- ・第一段階（発生予防の段階）
保護者同士が支え合う関係をつくっていくことに力を貸す。
- ・第二段階（進行予防）→ 保育所で求められる。
保護者の誰もが経験するであろう子育て上の不安や悩み（食べない、寝ない、排泄）に対して行う支援。
- ・第三段階（特別なニーズへの対応段階）
→ かなり保育所が担っている。
児童虐待、保護者自身の精神疾患など、特別な支援ニーズがある保護者に対するもの。

● 養育力の向上につなげる

保護者が「親」としての自信を育む

▼ 子どもに働きかけていることを言葉にして伝えていく。

保護者が「親」として無力でないことに気付く。

▼ 伝えていくことで保護者が・・・

自分の働きかけが、子どもの成長を支えているという実感がもてる。

▼ だから！

子どもの良いことをひと言伝えていく。そのためにも、子どもの様子をよく見て理解することが大事である。



夜泣きがひどくて
どうしたらいいの？

※出典：柏女、橋本編著「保育者の保護者支援-保育相談支援の原理と技術-増補版」フレーベル館（2010）

子育て支援の場面では、保護者との信頼関係作りが大切!

どのように関係を築いていくと良いのか学びました

● 三つのチャンス!

- ①相談に来てくれた時、よく聴く。すぐに答えを出さなくてもよい。
- ②問題が生じた時、表面化した時の背景に目を向ける。保護者と共に考える姿勢を忘れずに。
- ③苦情を言いに来てくれた時、相手がどんなことで困っているのか訴えの意味を知る。



● 保護者の養育力向上を目指した関わりをする

- ①保護者の養育能力の向上を目指した関わりとは、保護者と子どもを「つなぐ」役割がある。
- ②正しい知識を一方向的に教える行為ではなく、「どうしようもない」思いを受け止める。
- ③カウンセリングマインドを活かした関わりをする。(無条件の肯定的配慮・共感理解・自己一致)

● 保護者と共に子どもの成長を喜び合う

- ①出来ないことよりも出来たことへ焦点を当てる。
- ②何気ない会話の中で支える。(送迎時や連絡帳などで日常のコミュニケーションをとる)
- ③保育者は保護者の視点をもつ。

● 信頼される保育者になるために

- ①日頃からのコミュニケーションが大切。子どもの様子、できれば良い話を伝える。(日々の基盤となる)
- ②保護者の葛藤に寄り添う。

職員間で情報を共有する時は・・・

- ・子どもを**多面的に観る習慣**をつける。(気になる点ばかりに着目しない)
→職員間で連携。気になることがある時には情報共有していく。
- ・他の職員と**情報を共有(報告・連絡・相談)**することにより、相談の速度を考える。
相談後は必ずフィードバックをする。
- ・障がいがあり、専門的な介入を必要とする場合、保護者が子どもの障がいを受け入れるまでには**時間がかかることを認識し、相談にのる。**



まとめ

- ・安定した関係の中で、子どもとよく触れ合い子どもの育ち(発達)を知る。
- ・興味、関心を知り、育ちの見通しをもつ。
- ・保護者と子どもの育ちを共有する。
- ・場を共有をする。
- ・道具、遊具の特性(見立てができ、変化ができるものが良い)
- ・養護と教育の一体性(うれしいねの連続)

保育はチームで行うもの。特に、年齢が低くなればなるほど複数担任になると思います。クラスでも、クラスでなくとも、**保育者同士が頼ったり、頼られたりする関係の中で子どもを真ん中において保育を楽しんでいきましょう。**



研修生の報告書より



保護者との良好な信頼関係を築くことが「子どもの最善の利益」につながることを学んだ。子どもの良いところを見つけ、保護者と共有することを日々意識している。しかしその捉え方は様々であることに気づき、自分だったらどのように伝えてもらいたいのか考えた。ネガティブなことを伝えなければいけない場面であっても、プラスアルファの言葉を添えることで気持ちよく受け止めてもらえる工夫を実践していきたい。

子どもたちの良いところを探し、保護者と共有することを意識した。できるようになったことや挑戦したことなど、楽しいエピソードを降園時に伝えるようにすると、笑顔の保護者と、雰囲気を感じ取って子どもも笑顔になる。その反面、伝えなければいけないマイナスな面は、伝え方や言葉を選び慎重に。保護者との信頼関係があつてこそ子どもの安定が保たれると思うので、今後も意識していく。